

【コレクション展Ⅲ】
特集 海外に渡った画家たち
 2月8日(土)～5月18日(日)

諸外国に渡り新しい芸術に触れ、自己の表現を探求し
 開花させた日本人画家たちに焦点をあて軌跡をたどる。

高橋秀《大いなる期待》1977年 当館蔵

北九州芸術祭総合美術展

10部門(洋画・彫刻・書道・写真・水彩画・
 染織・日本画・水墨画・帆船模型・
 茶道)

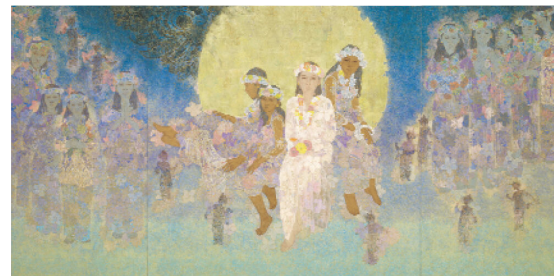
4月1日(火)～20日(日)

《本館企画展示室》洋画・彫刻・書道
 《アネックス》写真・水彩画・帆船模型・茶道
 《黒崎市民ギャラリー》日本画・水墨画・染織
 北九州で文化活動をされている方々の作品を展示。

再興 第109回 院展

4月19日(土)～5月6日(火・振休)

岡倉天心が創設した日本美術院が主催する
 日本画の展覧会。
 同人作家の新作33点をはじめ、受賞作品、
 および九州在住作家の入選作品を含む
 62点を展示。伝統と創造の精神を受け継ぐ
 現代日本画の粋を楽しめる。



井手康人(同人)《月乃神》2024年



【コレクション展1】
特集 マティスとピカソ ゲスト展示: guest room 010 中村ミナト
 5月31日(土)～9月21日(日)

20世紀を代表する2人の偉大な画家、アンリ・マティスとパブロ・ピカソ。
 それぞれの版画集『ジャズ』と『ヴォラールのための連作集』を中心に、
 2人の交遊と同時代のパリで活躍した画家たちの作品を紹介。

アンリ・マティス《ジャズ》(16)運命》1947年 当館蔵

ポップ・アート 時代を変えた4人

5月17日(土)～6月29日(日)

スペイン出身のコレクター、ホセリス・ルペレス氏
 所蔵による、約120点の版画、ポスターを日本初公開。
 リキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーク、ジョーンズの
 作品とともに、同時代に活躍した作家もあわせて紹介。

アンディ・ウォーホル《マリリン》1970年 ルペレス・コレクション
 ©Jose Luis Ruperez Collection
 ©2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / ARS,
 NY & JASPAR, Tokyo E5948



中村ミナト
 《curve meets flat》
 2022年 作家蔵(参考図版)
 撮影:山本糾

中島佑太

だれかと逃げ出せグーチョコパー!

7月19日(土)～8月31日(日)

参加型作品やワークショップを手がけるアーティスト中島佑太。
 北九州や各地で行ってきたこれまでの活動を振り返りながら、
 会期中も来場者が関わることで有機的に展示内容が変わっていく
 参加型/ワークショップ型の展覧会。

中島佑太《今日の遊び場》2024年(参考図版)
 Photo: Shinichi Ichikawa



黒田征太郎展 絵でできること

9月20日(土)～11月9日(日)

黒田征太郎、86歳、初となる大規模個展。
 これまでに作品は20万点を超え、
 今なお描き続ける孤高の画家の相貌を
 展開する。
 時代の鏡としたイラストレーターから、
 深淵な世界と時を撃つ画家の覚悟を、
 作品の変遷と功績を大回顧する。

2025 4
 10
 展覧会スケジュール

5
 11

6
 12

7
 1
 2026

8
 2

9
 3



黒田征太郎展
 絵でできること
 9月20日(土)～11月9日(日)

黒田征太郎
 《ジチンソウチ》
 制作年不詳
 個人蔵

第80回 県展
 11月20日(木)～24日(月・振休)

日本画・洋画・彫刻・書・写真・工芸・
 デザインの7部門を展示。

第59回 北九書の祭典
 11月27日(木)～30日(日)



【コレクション展Ⅱ】
特集 版元からみる浮世絵の名品
 10月4日(土)～2026年1月18日(日)

蔦屋重三郎(耕書堂)、西村屋与八(永寿堂)、竹内孫八(保永堂)など、
 浮世絵制作の企画から販売を担った版元の手腕に着目して
 浮世絵の名品を紹介。

葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》1831年頃(版元:西村屋与八) 当館蔵



鉄と美術(仮称)
 2026年1月4日(日)～3月15日(日)

1901年に官営八幡製鐵所が操業を開始してから、
 鉄の都として発展した八幡、北九州の歴史を軸に、
 素材に鉄が使われた作品や、鉄の都をめぐる
 様々な文化の表象を紹介。

四宮佑次
 《The Document :Frank Stella and YAWATA WORKS.
 Kitakyushu 1993 27》1993/2013年 当館蔵

【コレクション展Ⅲ】
特集 没後5年 菊畑茂久馬
 2026年1月31日(土)～5月6日(水・振休)

前衛美術集団「九州派」の主要メンバーとして全国的な注目を集め、
 反芸術の旗手として活躍した菊畑茂久馬を特集する。

菊畑茂久馬《天動説三》1983年 当館蔵

